

カスタネット

Vol.25 2013.3

第11回 女と男の一行詩・最優秀作品／夢だった 決まった職場に 男女の差

特集 オトコの育児

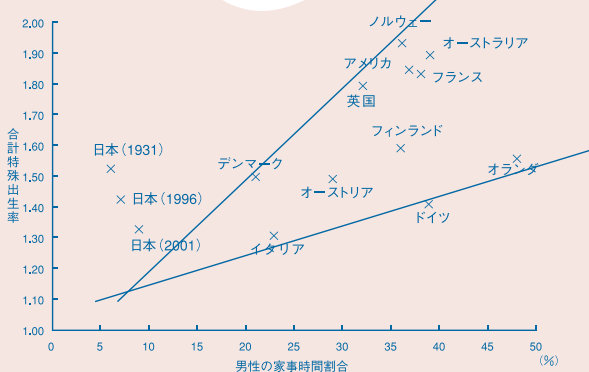
育児に参加する父親を「イクメン」と呼ぶのは、既に世の中に浸透していますが、ここ数年来「イクジイ」と呼ばれる存在が登場し、この呼び名も市民権を得つつあります。



「イクジイ」とは、自分の孫に限らず広く周囲の子ども達の育児にかかわる男性たち（祖父母の年代)のことです。

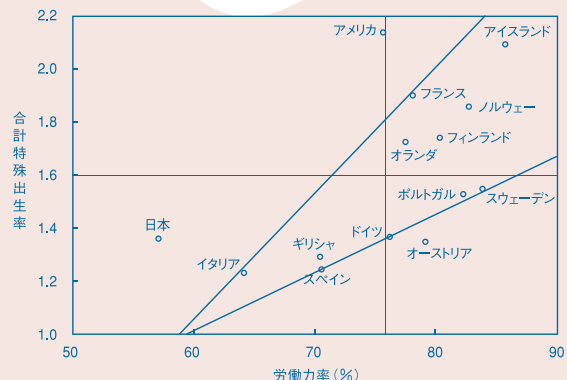
それぞれ自分の趣味や得意分野で子どもとのつながりを持ち、子どもや親はもちろんのこと、地域にとっても大いに有益となっている「イクメン」や「イクジイ」たちの活動はこれからますます脚光を浴びていきそうです。

男性が育児参加をするほど
出生率は上がる



資料: UNDP, Human Development Report 1995, 1995, 総務省統計局「社会生活基本報告書(第1巻)」各年版
注: 諸外国のデータは各国の調査年次が異なるため1985-92年にまたがる。

出産後も女性が就労するほど
出生率は上がる



出典: Council of Europe, Recent Demographic Developments in Europe 2001, 2001.
U.S.DHHS, National Vital Statistics Report, 50-5, 2002.
ILO, Yearbook of Labor Statistics, 2001.

◆先進諸国における男性の家事割合と出生率

◆女性(30-34歳)の労働力率と出生率の関係

:2000年

※平成24年度帯広市男女共同参画セミナー(講師:安藤哲也氏)資料より

「イクジイ」川辺の学習を通して 子どもとの関わり

育児に協力したいけれど、どう関わったらいいかわからないという男性たちが多く、自分自身も楽しみながら、子どもたちや地域に貢献する働きをしている頼もしい「イクジイ」たちがいます。今回は、そのような「イクジイ」の一人、「帯広川伏古地区子どもの水辺協議会」の会長 関川三男さんにお話を伺いました。



『地域でやれば、
もっと楽しい！』



〈サケ稚魚放流〉

川の楽しさや地域の素晴らしい自然を子どもたちに伝えようと、三年前から「帯広川伏古地区子どもの水辺協議会」を設立し、幅広い年代層を巻き込んで活動をしている関川三男さん。「子どもとの付き合い方ではない。川を愛でながら散歩することや釣りをするのは楽しいもの。それを個々ではなく、地域でやればもっと楽しい」と語る関川さん。



『川の体験を
通して学ぶ』

関川さんたちメンバーが活動している場所は、帯広市西二十一条南2丁目の帯広川。そこで、校区的小学校と幼稚園の子どもたち約200人が毎年、同協議会の指導の下で川辺の体験学習をしています。「深さ2センチの水があれば死ぬ危険がある。自然は怖いもの。楽しいけれど危ない。だからルールを守るといふことを第一に教える」。それとともに、「自然と向き合うと食育につながる」ということで、釣った魚を食べるとき、食べるということの意味や、他の命の大切さについて教えます。そうすると、他の生き物の痛みが分かるようになり、それはいじめ防止にもつながります。さらに川の水を汚すと自然を破壊して、自身の食べ物もなくなる、という大自然の循環にも及び、子どもたちは広範な学習を、頭だけでなく、体験を通して肌で感じ、学ぶことになります。



〈川流れの様子〉

『「イクジイ」は
得意とする分野で！』

関川さんは釣りが大好きで、「歩いて1分でニジマスが釣れるところに住んでいるが、これはぜいたくで素晴らしいこと」と、夏場は毎朝、釣りに出掛け、また、水面の写真を撮影して、水の透明度を調べたりしています。このような自分が楽しんでやっていることの延長線上に子どもたちや地域の人々との関わりがあり、それが地域に貢献する活動となっています。

「イクジイ」としての活動に限定はなく、さまざまなものがあり、関川さんたちグループのようにそれぞれが関係団体などを巻き込みながら楽しむことが秘訣と言えます。

平成24年度帯広市男女共同参画セミナー

「笑っているあなたが 社会を変える！」

～豊かな経験を地域に活かそう～

NPO法人ファザーリング・ジャパン副代表（創設者）の安藤哲也氏を講師に迎え、2012年10月18日とかちプラザで帯広市男女共同参画セミナーが開催されました。その講演要旨を紹介します。

育てる男が社会を変える

近年、社会構造や経済状況、さらにライフスタイルなどの変化で、子どもを産み、育てることの難しさから、少子化が加速しています。30代の母親が第二子を産まない理由の第1位に挙げられているのが「夫の非協力」（厚労省調べ）です。旧来の男女の役割や働き方を見直し、ごく普通に男性が育児や家事に参加できる環境を作らなければなりません。そのためには、女性の社会進出を、地域や企業を含めて皆で応援し、安心して産み、育てられる社会にしていきたいものです。

共に働き、経済成長を！



先進諸国では、男性が育児参加する国ほど出生率は上がり、出産後も女性が就労する国ほど出生率が上がっています。その経済効果は、7兆円とも言われています。経済成長のためにも、働く女性の活躍を支えようではありませんか。それには、育児に参加したい男性には育児休業など取りやすくすべきです。子育てを共有することにより、子どもにとって良き父親であるとともに、夫婦にとってもパートナーシップが強まります。

父親が育児に関わる メリット

父親が育児に参加することによって、子どもの成長過程で言葉や社会性が早く身に付き子どもの良きモデルとなります。父親にとっては、アイデアが仕事に活きることもあり、自活力がつき、地域に友達も増え定年後から老後も安心。世界が広がり、人生も楽しいものとなります。



★ サンデーファミリーにお邪魔しました ★

帯広すずらん保育所では、日曜日に（毎月1回）保育所の広場を開放し、就学前のお子さんとその親で楽しく遊んでもらう「サンデーファミリー」を実施しています。参加しているパパたちにお話を伺い、昨今の「イクメン」事情を取材しました。



パパたちは、妻にばかりに育児の負担をかけることをよしとせず、「子育ては協力して共にしたい」と、自分にできる範囲のことを行っているようで、そこに育児の大変さを理解しているパパたちがいました。

最初は妻に誘われてきたパパも、「サンデーファミリー」に参加することによって、妻の育児によるストレスや悩みの解消になっている」ということや、「他の子どもたちと遊ぶ我が子の姿に成長を感じることが楽しみ」との意見が多く、継続して参加するようになる人が多いそうです。

厳しい社会状況の中で、仕事に疲れて帰宅するパパたちですが、育児に関わろうと奮闘しているその姿に拍手を送りたくくなりました。

育児は短い期間なので、大変でも

フレー、フレー、パパ！



第11回「女と男の一行詩」

賞 最優秀賞

「夢だった決まった職場に男女の差」

入賞作品発表!!

将来の職業について考えているときに、夢と希望を持って入った職場に男女の差があると嫌だなという気持ちからこの詩を書かせてもらいました。賞を頂けて嬉しいです。

棚瀬千帆さん（高校生）



賞 優秀賞

できること 男と女じゃ違うけど
だから可能な 助け合い

大野 美希さん（高校生）

父と母 我が家の大事な 大黒柱

中山 雄登さん（小学生）

賞 入選

育メンと 流行る言葉に 感じる差

有安 友美さん（一般）

違います 女性是有児の プロじゃない

斉藤 巨哉さん（高校生）

父は母に感謝する 母は父に感謝する
僕はふたりに感謝する

菜原 惟信さん（高校生）

「女と男の一行詩」は、男女平等や性別による固定された役割の違いなどについて、日常の身近なところから短い言葉で表現することを通じて男女共同参画について考えていただくことを目的に2002年から実施しています。

今年度から応募の対象を十勝管内在住、通勤・通学されている方にしたところ、過去最多の1,290作品の応募がありました。一般投票と選考委員により6作品が入賞し、帯広市役所で表彰式が行われ、嶋野副市長から賞状と副賞が授与されました。

最優秀賞を受賞した棚瀬さんの作品は、学校で職業体験をしたときに感じた男女の差を一行詩にしたものです。今年度の入賞作品は、家族への思いやりや、育児が未だに一方への負担になっている現実などを思う小学生、高校生など若い世代の作品が入賞しています。

誰もが住みよい社会にするために、性別で役割を固定的に考えるのではなく、職場で、学校で、地域で今まで以上に男性と女性が協力し合うことが必要になってきています。

登録者募集!

「帯広市女性人材バンク」

帯広市では、各種審議会等の政策方針決定の場や講演会等に女性が参加出来る機会を増やし、その能力を発揮していただくため、候補者を登載した「帯広市女性人材バンク」を設置いたしました。

審議会や講演会等の主催者の方々に、様々な分野で活躍されている多くの女性の情報を適切に提供していきたいと考えています。

皆様の知識や経験を市政に反映させる絶好の機会です。自薦、他薦（本人の承諾必要）は問いません。専門的知識や技能をお持ちの方はもちろん市政に関心のある方、意欲のある女性の方、ぜひご登録ください。

申し込みは随時受け付けていますので、市のホームページ（※）からダウンロードした申込書に記入して男女共同参画推進課に郵送又は持参してください。詳しくは男女共同参画推進課までお問い合わせください。

※市HPで「女性人材バンク」と検索してください。

皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。

〒080-8670

帯広市西5条南7丁目 帯広市役所 男女共同参画推進課

電話：0155-65-4134 FAX：0155-23-0171

電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成25年3月発行

●発行 行：帯広市 男女共同参画推進課

●企画・編集：帯広市男女共同参画推進員

阿部千鶴子・小林 孝子

小野寺和子・棚瀬 寿子